

フリースクールなど民間の相談・指導施設との連携の一層の充実に向けて①

北海道教育庁学校教育局
義務教育課子ども地域支援グループ

去る10月25日付けで文部科学省から「不登校児童生徒への支援の在り方」の通知が出されました。

この通知は、「不登校に関する調査研究協力者会議」及び「フリースクール等に関する検討会議」の議論のとりまとめの過程等において、過去の不登校施策に関する通知における不登校児童生徒の指導要録上の出席扱いに係る記述について、いわゆる教育機会確保法や基本方針の趣旨との関係性について誤解を生じる恐れがあるとの指摘があったことから、当該記述を含め、これまでの不登校施策に関する通知について改めて整理され、まとめられたものです。

本資料では、フリースクール等に関する記述を抜粋しましたので、フリースクール等と連携を図る際の参考にしてください。

■ 不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方

- 不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。また、児童生徒によっては、不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することに留意すること。
- 児童生徒の才能や能力に応じて、それぞれの可能性を伸ばせるよう、本人の希望を尊重した上で、場合によっては、教育支援センターや不登校特例校、ICTを活用した学習支援、フリースクール、中学校夜間学級（以下、「夜間中学」という。）での受入れなど、様々な関係機関等を活用し社会的自立への支援を行うこと。その際、フリースクールなどの民間施設やNPO等と積極的に連携し、相互に協力・補完することの意義は大きいこと。

■ 学校等の取組の充実

- 不登校児童生徒が教育支援センターや民間施設等の学校外の施設において指導を受けている場合には、当該児童生徒が在籍する学校がその学習の状況等について把握することは、学習支援や進路指導を行う上で重要であること。学校が把握した当該学習の計画や内容がその学校の教育課程に照らし適切と判断される場合には、当該学習の評価を適切に行い指導要録に記入したり、また、評価の結果を通知表その他の方法により、児童生徒や保護者、当該施設に積極的に伝えたりすることは、児童生徒の学習意欲に答え、自立を支援する上で意義が大きいこと。
- 不登校児童生徒の一人一人の状況に応じて、教育支援センター、不登校特例校、フリースクールなどの民間施設、ICTを活用した学習支援など、多様な教育機会を確保する必要があること。また、夜間中学において、本人の希望を尊重した上での受入れも可能であること。

■ 指導要録上の出欠の取扱いについて

- 不登校児童生徒の中には、学校外の施設において相談・指導を受け、社会的な自立に向け懸命の努力を続けている者もあり、このような児童生徒の努力を学校として評価し支援するため、我が国の義務教育制度を前提としつつ、一定の要件を満たす場合に、これらの施設において相談・指導を受けた日数を指導要録上出席扱いとすることができることとする。
- 不登校児童生徒の中には、学校への復帰を望んでいるにもかかわらず、家庭にひきこもりがちであるため、十分な支援が行き届いているとは言えなかったり、不登校であることによる学習の遅れなどが、学校への復帰や中学校卒業後の進路選択の妨げになっていたりする場合がある。このような児童生徒を支援するため、我が国の義務教育制度を前提としつつ、一定の要件を満たした上で、自宅において教育委員会、学校、学校外の公的機関又は民間事業者が提供するICT等を活用した学習活動を行った場合、校長は、指導要録上出席扱いとすること及びその成果を評価に反映することができることとする。

道内のフリースクールの活動事例を紹介します

取組 1

特定非営利活動法人

フリースクール札幌自由が丘学園

札幌市東区
北 8 条東 1 丁目 3 - 10

- 運営方針：不登校の児童生徒たちに安心できる居場所と学びの場を提供し、これを通して児童生徒が学校復帰、及び高校その他の学校への進学など、自立に向かって自らを成長させることができるよう援助し、子どもたちの健全育成、生涯学習などの公益の増進に寄与することを目的とする。
- 指導対象：小学生（5年生以上）、中学生
- 指導形態：通所
- スタッフ：学園長 1 名（教員免許所有者）、指導者 2 名（教員免許所有者 1 名・社会福祉士資格所有者 1 名）、事務員 1 名、非常勤講師 5 名、ボランティアスタッフ 3 名
- 指導内容：
 - 午前：国語、算数・数学、理科、社会等の教科学習を習熟の程度に応じて実施
 - 午後：テーマ研究や創造活動（自分で活動内容を決めて実施）、美術、音楽、体育などを実施
 - 行事：円山動物園写生会、調理、アウトドア体験、ヨット体験、登山、宿泊学習、職業体験、文化祭 等
- 費用：入学金 30,000 円、全日コース 36,000 円/月、週 2 コース 22,000 円/月、テキスト代 4,000 円/年
- 学校との連携：月ごとに児童生徒の出欠状況を報告、電話連絡や学校訪問などにより情報を交換 教職員および関係機関職員を交えたカンファレンス（不定期）
- ホームページ：<http://www.sapporo-ig.com/>
- その他：時間割を定めて活動を実施しています。基礎学力や表現力、実践力を培うことを特色とし、多彩な活動を展開しています。



取組 2

学校法人

星槎適応指導教室 えみな

帯広市
西 5 条南 10 丁目 37 番

- 運営方針：「学校に行きたいけど行けない」、「自信がない」、「友だちを作りたい」など、登校への不安や学習に対する特性をもつ子どもたちの学びを支え、社会生活に向けた力を養う。
- 指導対象：小学校 4 年生～中学校 3 年生
- 指導形態：通所
- スタッフ：教員免許所有者 6 名
- 指導内容：
 - 人との関わり合いのなかで、楽しみながらコミュニケーションの力をつける。
 - 特性・個性に合った学習方法を身につけ、基礎学力の定着を図る。（在籍校の教材のほか、生徒に応じて補助資料などを使用）
- 費用：入学金 20,000 円、授業料 10,000～30,000 円/月
- 学校との連携：通所や学習の状況を定期的に連絡 在籍校・医療機関・支援機関との支援会議で支援方針の調整・確認 学校行事への参加など、在籍校への登校機会を考慮して柔軟に対応
- ホームページ：<http://www.seisa.ed.jp/obi/emina/>
- その他：時間割を定めています。学習する内容はスタッフと相談しながら決めます。ソーシャルスキル・トレーニング等も実施しています。



- 北海道教育委員会では次のような情報を HP に掲載しています。
 - ・連携している道内フリースクールなど民間の相談・指導施設の一覧（施設の HP にリンクしているものもあります）及び活動事例
 - ・北海道教育委員会のフリースクールなど民間の相談・指導施設への支援に関する情報 道教委 HP <http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/freeschool/index.htm>

《子ども地域支援グループHP 》

